



J. FRONT RETAILING

2015年12月15日

会社名 J.フロント リテイリング株式会社
 コード番号 3086
 代表者名 代表取締役社長
 山本 良一
 お問合せ先 経営戦略統括部
 コーポレートガバナンス推進担当
 IR・グループ広報
 TEL 03-6895-0178

2015年11月度 J.フロント リテイリング 連結営業報告

1. セグメント別売上高（対前年増減率：％）

	11月度	9～11月度累計
百貨店事業	▲ 2.8	1.3
パルコ事業	▲ 1.7	2.1
卸売事業	▲ 11.9	▲ 8.2
クレジット事業	3.2	5.3
その他事業	26.7	15.3
連結合計	▲ 1.8	1.9

2. 売上高概況

1) 百貨店事業

- ・ 11月度の百貨店事業の売上高は、宝飾品、ラグジュアリーブランド、化粧品などが好調に売上を伸ばしたものの、気温が平年より高く推移したことにより、コートやブーツなど冬物ファッションの動きが鈍かったことに、土曜日が対前年▲1日減であったことによるマイナス影響が加わり、大丸松坂屋百貨店合計では対前年▲2.3%減、関係百貨店を含めた百貨店事業合計では同▲2.8%減となった。

2) パルコ事業

- ・ 化粧品、バッグなどが好調を持続したものの、気温が平年より高く推移したことにより、ダウン素材のアウトターなど冬物ファッションの動きが鈍かったことに、土曜日が対前年▲1日減であったことによるマイナス影響が加わり、パルコ事業全体では対前年▲1.7%減となった。

3) その他

- ・ 卸売事業の大丸興業は、金属・自動車関連事業が好調を持続したものの、食品・リテール事業の苦戦により、対前年▲11.9%減となった。
- ・ クレジット事業のJFRカードは、加盟店手数料、割賦販売手数料や年会費収入などが増加したことにより、対前年3.2%増となった。
- ・ その他事業では、J.フロント建装が大丸松坂屋百貨店の売場改装に加え、商業施設、ホテル、大型客船などの内装工事の売上計上により大幅増となったほか、人材派遣業のディンプルなどの好調により、対前年26.7%増となった。

お問合せ先 J.フロント リテイリング株式会社 コーポレートガバナンス推進担当
 IR・グループ広報

TEL 03-6895-0178
 FAX 03-6674-7565

2015年11月度 百貨店事業 営業報告

1. 売上高および入店客数（対前年増減率：％）

	11月度		9～11月度累計	
	売上高	入店客数	売上高	入店客数
大丸 心齋橋店	6.5	▲0.1	11.5	3.2
大丸 梅田店	▲5.3	▲8.4	0.9	▲4.1
大丸 東京店	1.0	▲0.6	4.6	1.6
大丸 浦和パルコ店	▲5.7	▲7.9	▲3.6	▲4.6
大丸 京都店	▲3.8	▲3.3	▲0.6	▲2.8
大丸 山科店	▲2.8	▲2.3	▲2.3	▲3.0
大丸 神戸店	▲5.2	▲6.3	0.7	▲1.7
大丸 須磨店	▲5.8	▲6.3	▲3.4	▲3.6
大丸 芦屋店	▲4.1	3.0	▲2.7	3.3
大丸 札幌店	▲4.1	▲4.3	▲0.1	▲3.4
松坂屋 名古屋店	▲4.1	1.9	▲0.4	0.8
松坂屋 上野店	▲1.9	▲0.7	▲2.3	▲0.2
松坂屋 静岡店	▲2.3	▲5.7	▲2.7	▲2.4
松坂屋 高槻店	▲7.7	▲5.5	▲4.4	▲4.7
松坂屋 豊田店	▲3.4	0.5	0.5	3.1
大丸松坂屋百貨店合計	▲2.3	▲3.2	1.6	▲1.0
博多大丸	▲5.0	▲7.5	2.0	▲2.5
下関大丸	▲10.1	▲9.9	▲7.0	▲7.1
高知大丸	▲12.4	▲16.2	▲4.9	▲7.6
百貨店事業合計	▲2.8	▲3.8	1.3	▲1.3

2. 大丸松坂屋百貨店 商品別売上高（対前年増減率：％）

	11月度	9～11月度累計
紳士服・洋品	▲10.4	▲4.4
婦人服・洋品	▲7.0	▲0.8
子供服・洋品	▲7.7	▲0.2
その他の衣料品	▲5.7	▲5.0
衣料品計	▲7.6	▲1.6
身回品	▲2.6	1.2
化粧品	12.9	19.3
美術・宝飾・貴金属	21.4	21.6
その他雑貨	3.3	12.5
雑貨計	15.9	19.7
家具	▲12.4	▲1.5
家電	▲52.1	▲44.3
その他の家庭用品	▲8.0	▲7.6
家庭用品計	▲10.7	▲7.8
生鮮	▲5.5	▲2.7
菓子	▲0.5	0.6
惣菜	▲3.2	▲0.7
その他食料品	▲1.1	0.6
食料品計	▲2.3	▲0.4
食堂・喫茶	▲1.4	1.7
サービス	▲4.0	4.3
その他	7.8	▲1.1
合計	▲2.3	1.6

3. 売上高概況

婦人服・洋品は、ラグジュアリーブランドが好調を持続したものの、コート、ニットなどの冬物ファッションが不調であった。紳士服・洋品は、コート、ブルゾンなどが苦戦した。身回品は、かばん・旅行用品、ネクタイなどが好調であったが、婦人・紳士靴などが不調であった。雑貨は、化粧品が訪日外国人客による押し上げなどもあり好調を持続したほか、美術品、時計・宝飾品の売上がそれぞれ前年の2割超の増加となった。家庭用品は、名古屋店第3期改装による売場面積の減少が影響した。食料品は、名古屋店の大型催事の開催月変更などによりマイナスとなった。